

第2章 地域を取り巻く現状と課題

1. 高齢化の進行と世帯人員の減少

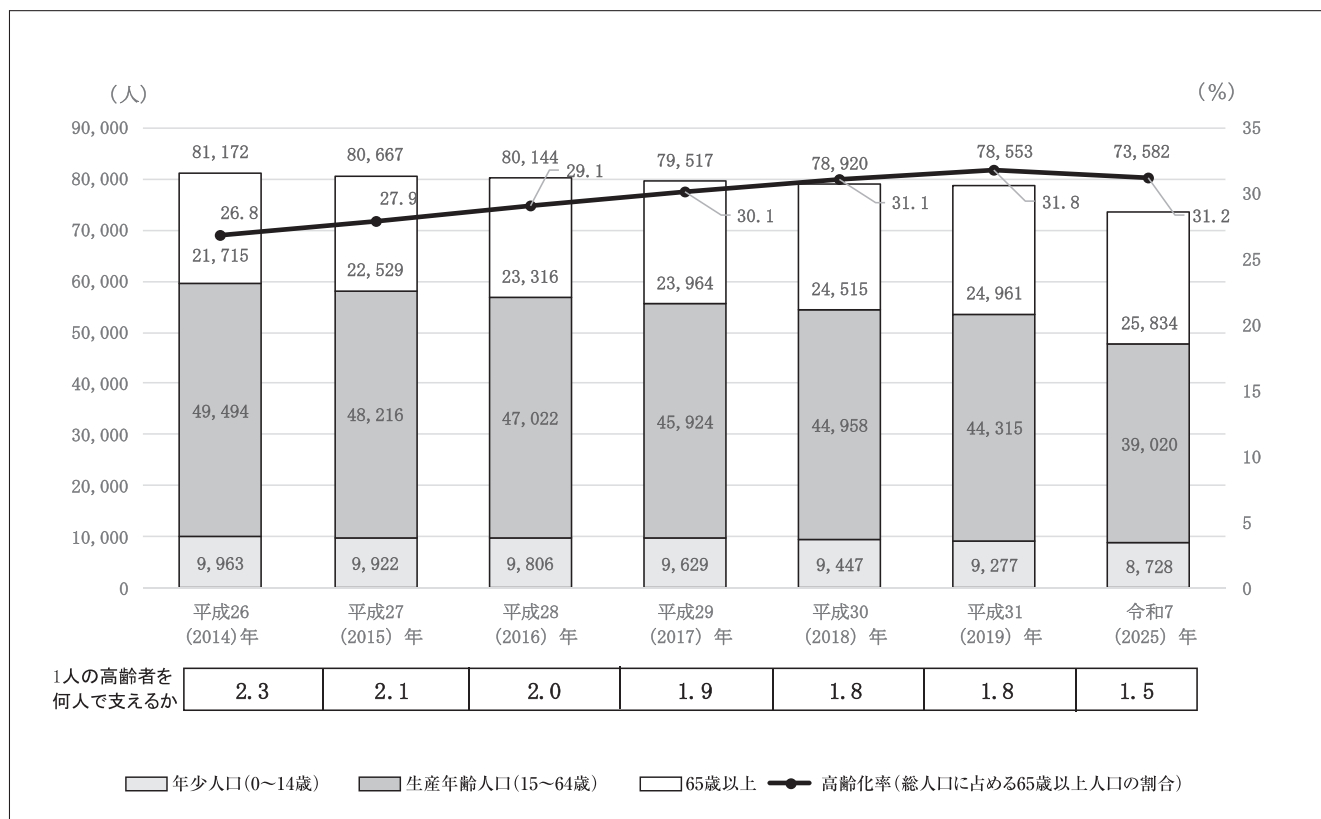
(1) 年齢3区分別人口と高齢化率の推移

総人口は、近年やや減少傾向で推移しており、平成31(2019)年では78,553人となっています。令和7(2025)年の推計人口は、73,582人となっており、今後も減少する見込みとなっています。

年齢3区分別人口についてみると、年少人口(0～14歳)と生産年齢人口(15～64歳)では減少傾向がみられる一方、高齢者人口(65歳以上)は増加傾向にあり、平成31(2019)年ではそれぞれ年少人口9,277人、生産年齢人口44,315人、高齢者人口24,961人となっています。そのため高齢化率は上昇しており、平成31(2019)年では31.8%で平成26(2014)年より5.0ポイント高くなっています。一方、それを支える生産年齢人口は、平成26(2014)年から令和7(2025)年までにかけ約10,500人減少し、1人の高齢者に対する現役世代の人数は、平成26(2014)年の2.3人から令和7(2025)年には1.5人となるものと推計され、増える高齢者をいかに支えていくかが課題となっています。

■年齢3区分別人口と高齢化率の推移 【資料：名張市(各年4月1日現在)】

名張市推計人口【国立社会保障・人口問題研究所『日本の地域別将来推計人口』(平成30年推計)】

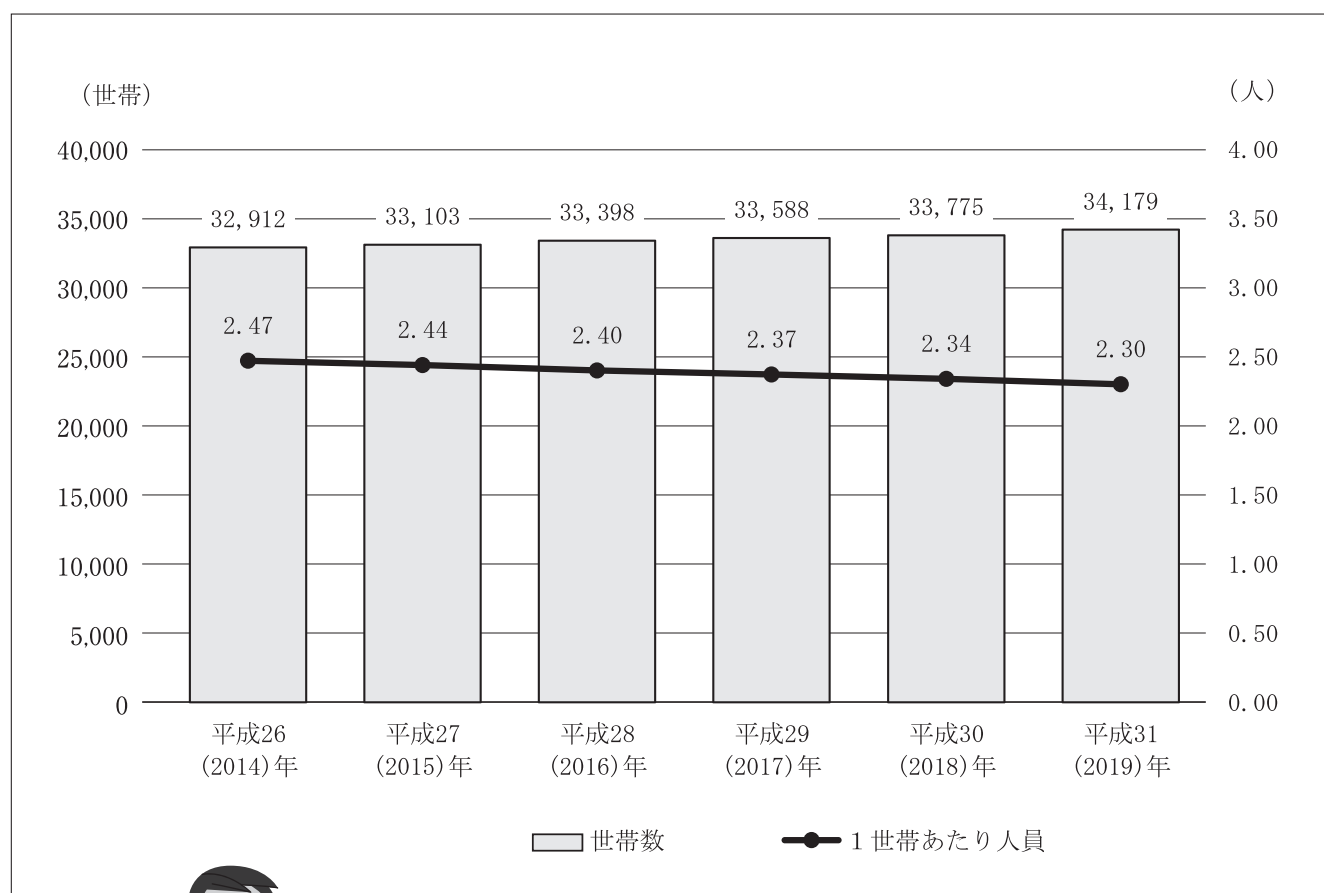


(2) 世帯数及び1世帯当たり人員

世帯数及び1世帯当たり人員については、世帯数が増加傾向にある一方で、1世帯当たり人員は減少傾向にあります。平成31(2019)年では世帯数が34,179世帯、1世帯当たり人員が2.30人となっています。

家庭における世帯人員の減少や8050問題など家庭内での課題の複雑化、地域における近所付き合いの希薄化など家庭や地域における相互扶助機能が低下しており、いち早い問題の把握に向け、相談・支援体制の充実と関係機関との連携が今後も求められます。

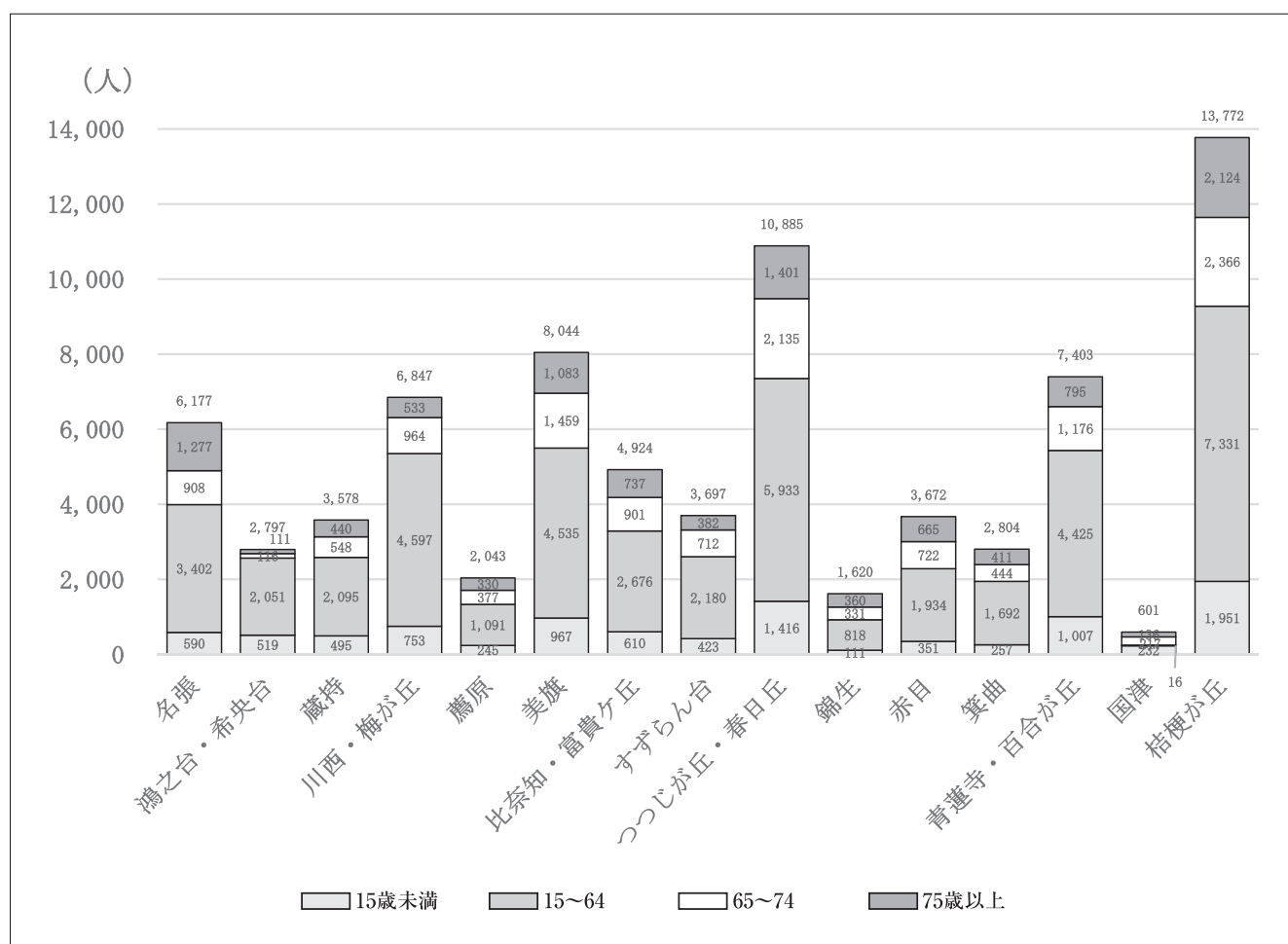
■世帯数及び1世帯当たり人員の推移 【資料：名張市(各年4月1日現在)】



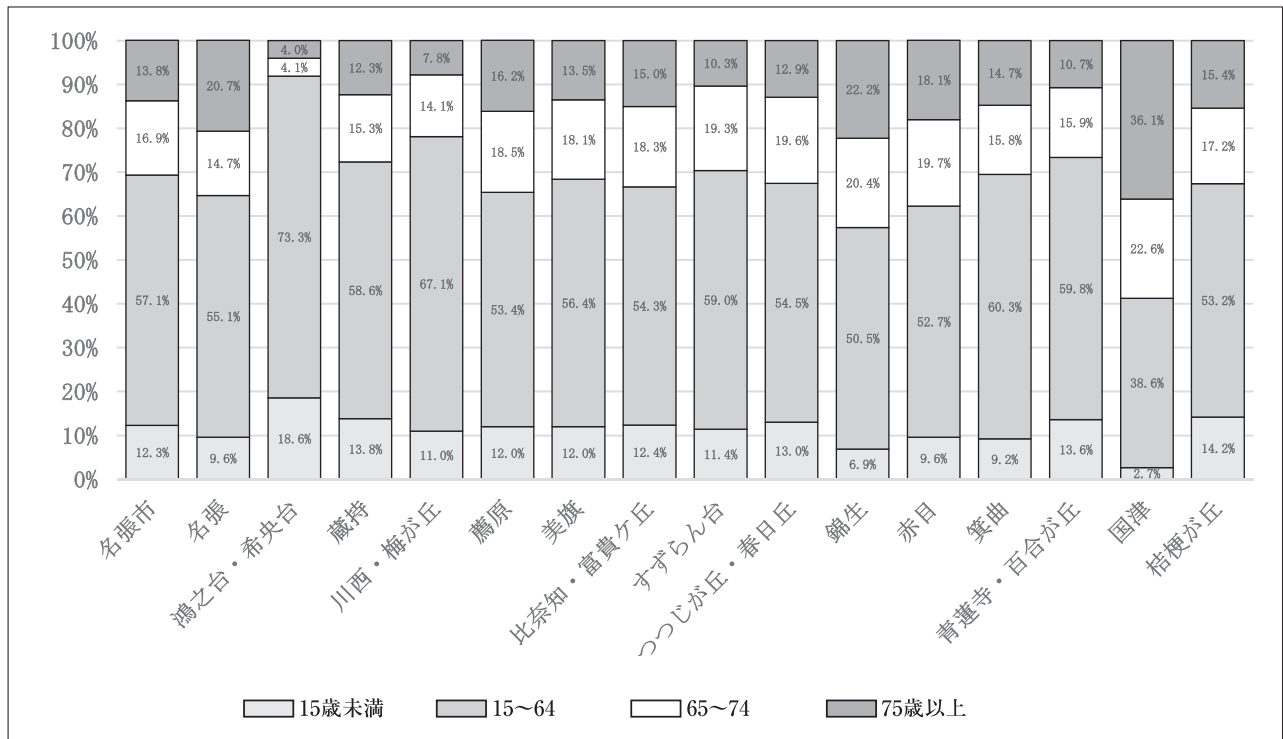
(3) 15地域別の年齢階層別人口

地域づくり組織ごとの現在の年齢階層別人口割合を見ると、地域ごとに大きな差が見られます。名張市は、若年層を中心とした人口流出と団塊の世代を中心とした住宅地への転入者等の要因により急激に高齢化が進むことが見込まれます。地域によっては、公共交通機関の運行状況、商業地との距離、近隣関係、住民の年代層など、抱える課題は様々です。

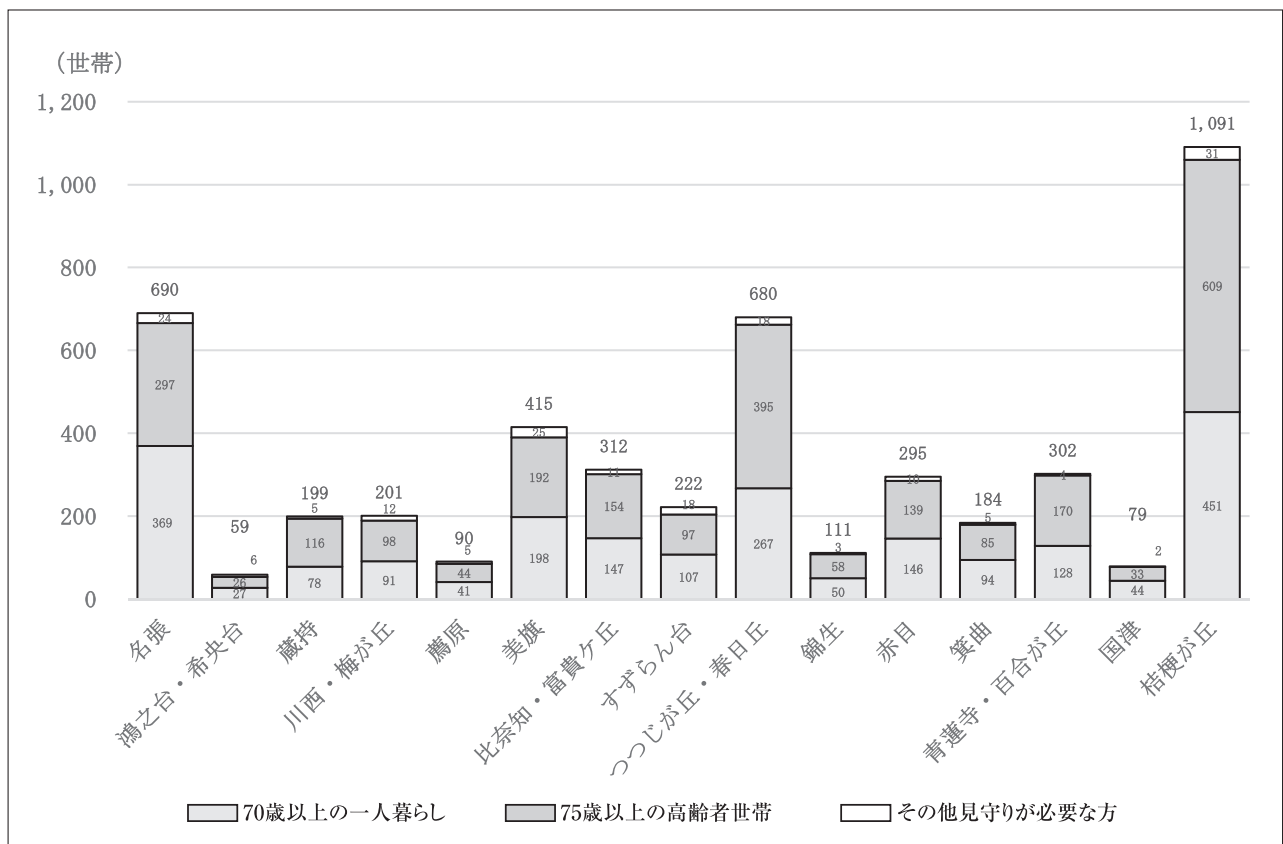
■15地域別の年齢階層別人口 【資料：名張市『町・年齢別人口統計』】（平成30年10月1日現在）



15地域別の年齢階層別人口(割合)【資料:名張市『町・年齢別人口統計』】(平成30年10月1日現在)



15地域別の高齢者世帯調査状況【資料:名張市高齢者等実態調査(平成30年度)】

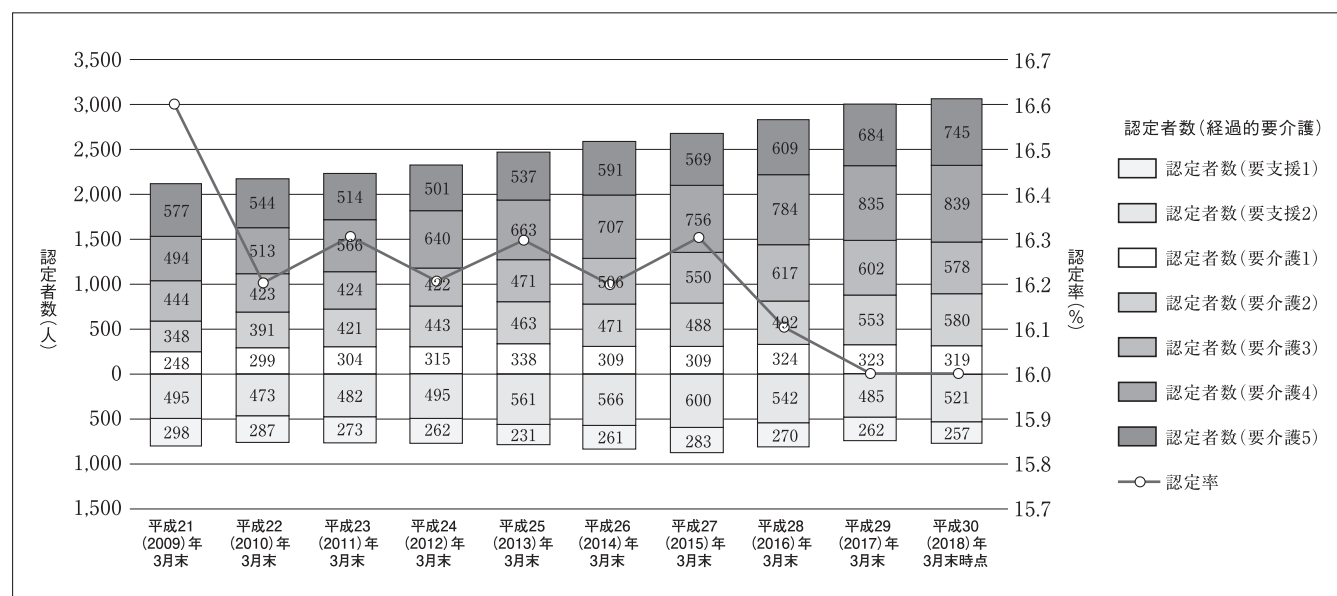


2. 支援を必要とする人の状況

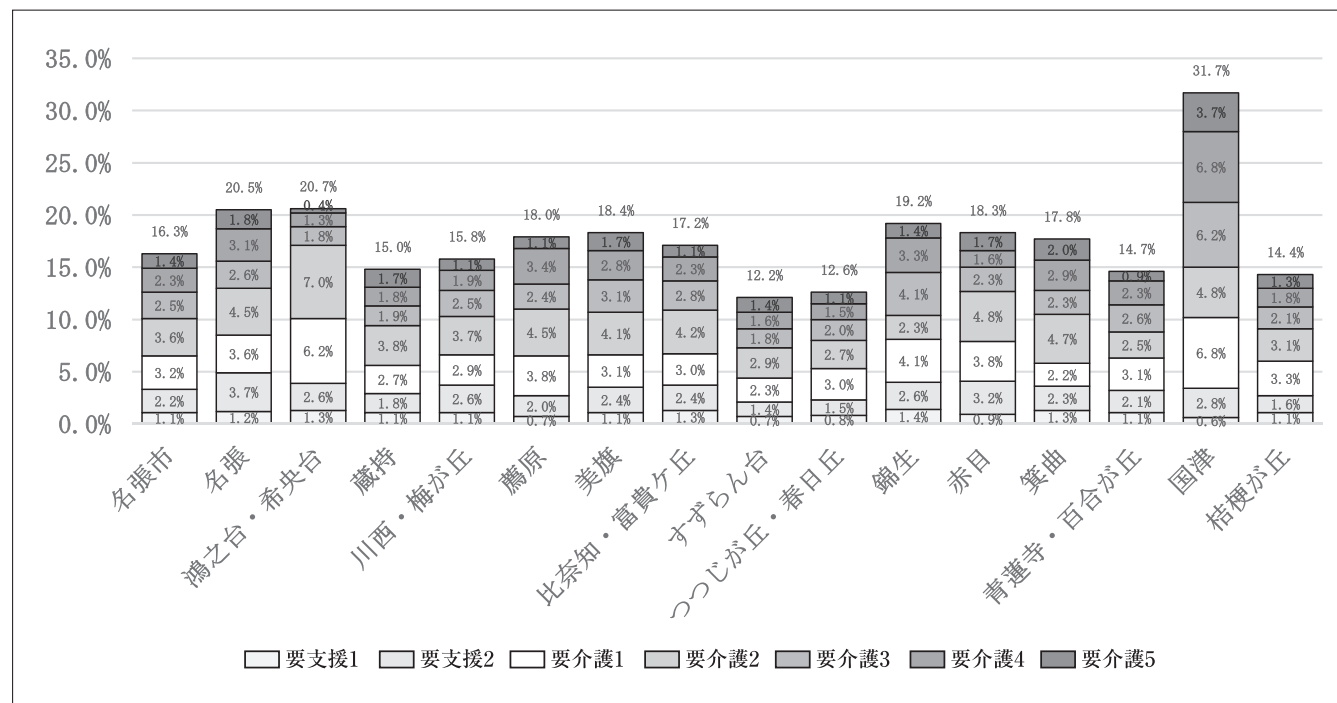
(1) 名張市における要介護者

名張市における要介護認定率は、介護予防施策がスタートした平成18(2006)年の19.6%をピークに減少し、近年は16%台で推移しています。これは、名張市及び各地域における介護予防や生活支援の取組みの成果であり、今後も維持していかなければなりません。

■名張市要介護認定者数、要介護認定率の推移（厚生労働省介護保険事業状況報告年報・月報）



■15地域別の要介護度別認定率(平成30年10月1日現在)



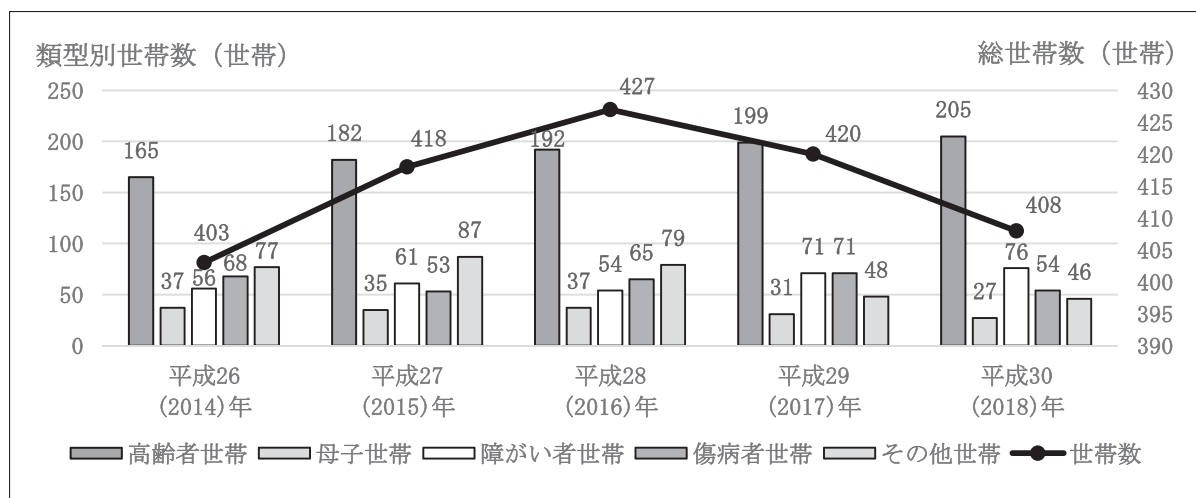
(2) 生活保護年度別保護状況

平成26(2014)年以降、被保護人員、被保護世帯ともにほぼ横ばいで推移しており、平成30(2018)年度末現在の被保護人員567、被保護世帯は408世帯となっており、保護率は7.3%となっています。これは、全国の16.6%と比べ低い数値となっています。

世帯類型別では、高齢者世帯の割合が高く、次いで障がい者世帯となっています。特に、高齢者世帯はこの5年間で9.3ポイント増加しており、無年金や低年金の世帯に対する対応が課題となっています。

■生活保護(年度別保護状況) 【資料:名張市(平成26年度～平成30年度末)】

		平成26 (2014)年	平成27 (2015)年	平成28 (2016)年	平成29 (2017)年	平成30 (2018)年
被保護人員 (人)		597	592	613	595	567
世帯数 (世帯)		403	418	427	420	408
内訳	高齢者世帯 (世帯)	165	182	192	199	205
	構成比率 (%)	40.9%	43.5%	45.0%	47.4%	50.2%
	母子世帯 (世帯)	37	35	37	31	27
	構成比率 (%)	9.2%	8.4%	8.7%	7.4%	6.6%
	障がい者世帯	56	61	54	71	76
	構成比率 (%)	13.9%	14.6%	12.6%	16.9%	18.6%
	傷病者世帯	68	53	65	71	54
	構成比率 (%)	16.9%	12.7%	15.2%	16.9%	13.2%
	その他世帯	77	87	79	48	46
	構成比率 (%)	19.1%	20.8%	18.5%	11.4%	11.3%
保護率 (%)	名張市	7.5	7.5	7.8	7.6	7.3
	全国	17.0	16.9	16.9	16.8	16.6

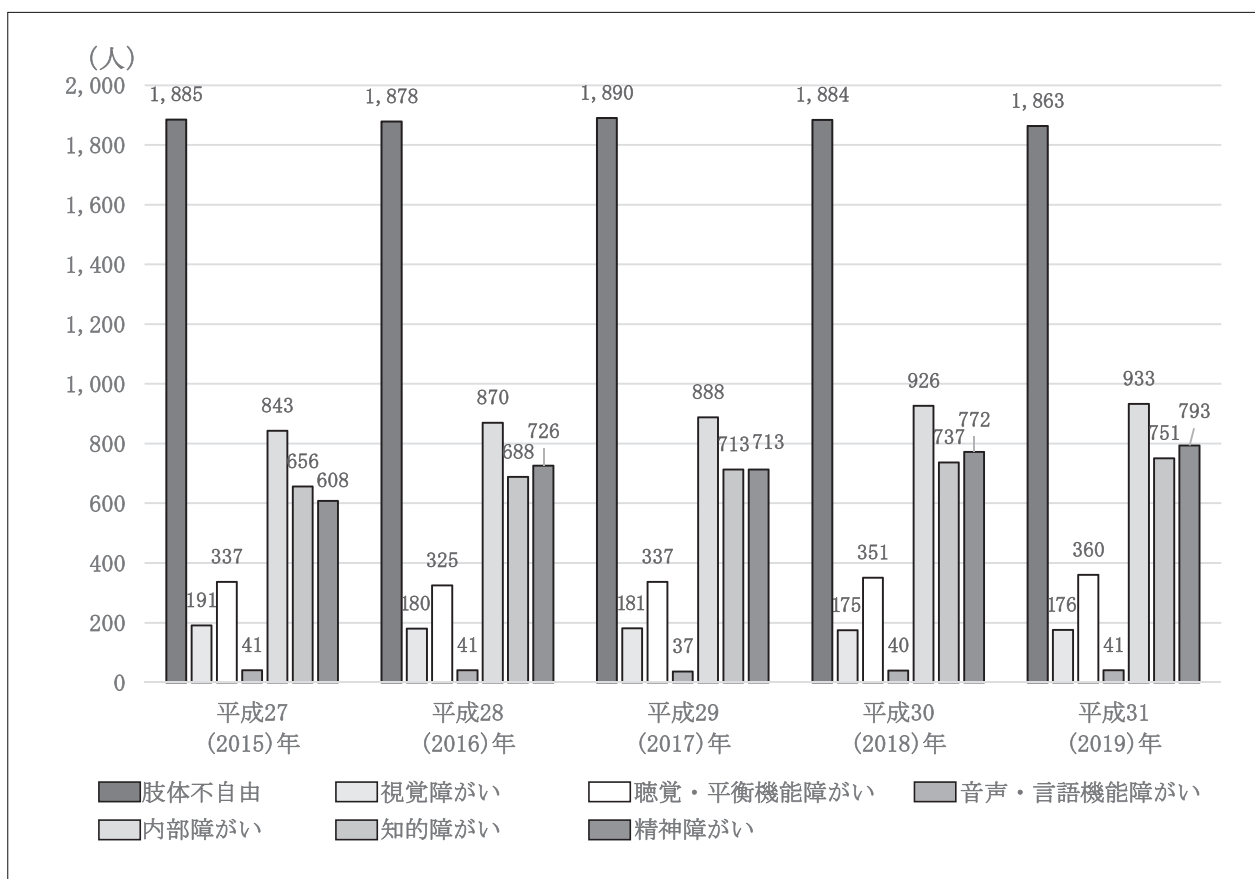


(3) 名張市の障がい者の現状

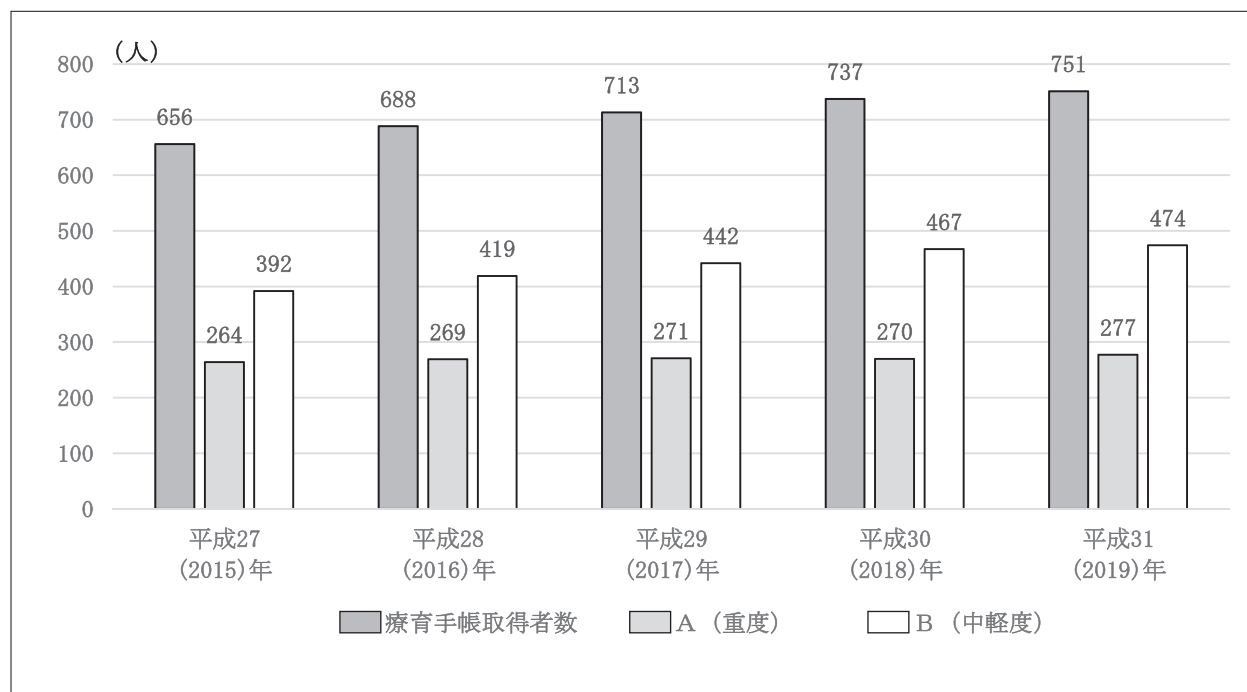
① 障害者手帳交付者数

名張市における障害者手帳交付者は、肢体不自由、視覚障がい、聴覚・平衡機能障がい、音声・言語機能障がいは横ばいで推移しているものの内部障がい、療育手帳取得者、精神障害者保健福祉手帳取得者は増加傾向にあります。療育手帳取得者の推移をみると、平成31(2019)年と平成27(2015)年と比較して95人増加しています。これは発達支援の取組が充実したことにより早期発見につながり、療育手帳取得者が増加したものと考えられます。また、精神障害者保健福祉手帳取得者も185人増加していますが、高齢化の進行に加え、障がいへの理解が進み、障害認定を受ける人が増えたことも増加の要因と考えられます。

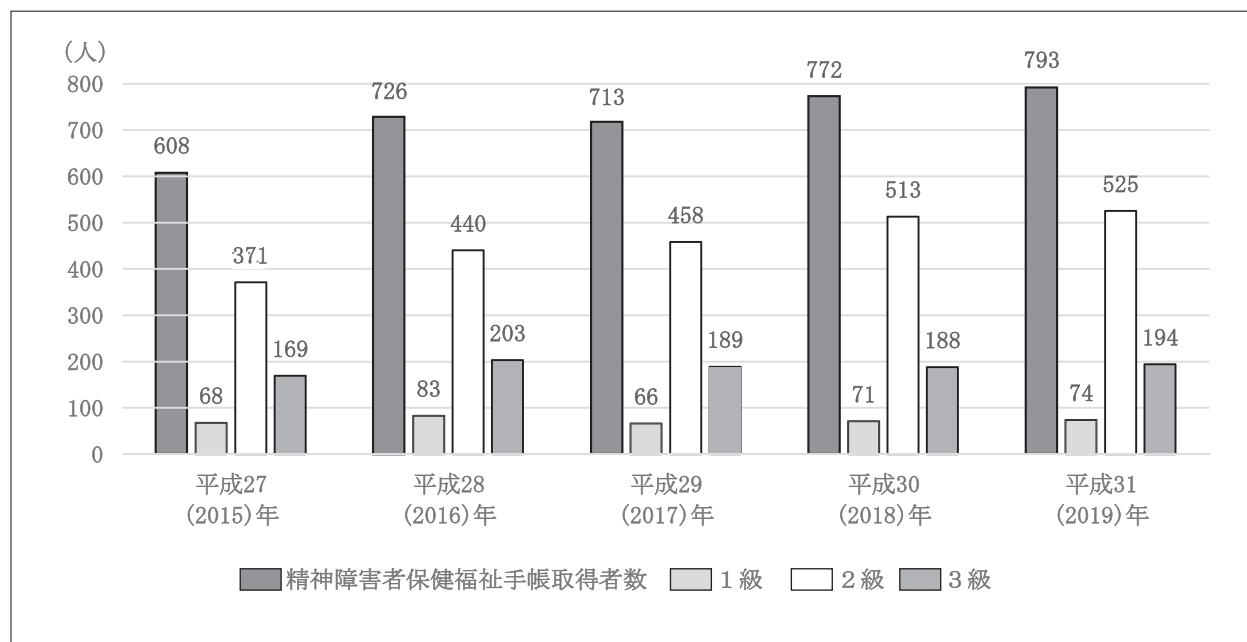
■ 障害者手帳交付者数 【資料：名張市(各年4月1日現在)】(平成27年～平成31年)



療育手帳取得者数 【資料:名張市(各年4月1日現在)】



精神障害者保健福祉手帳取得者数 【資料:名張市(各年4月1日現在)】



(4) 子どもと子育て家庭の現状

①少子化の状況

急速な少子化が全国的な社会問題となっています。合計特殊出生率が、一般的に2.08を下回れば将来の人口は自然減になるといわれています。一時的に、名張市においては、平成19(2007)年には、1.17の数値となりましたが、以降やや回復の兆しがあります。

■合計特殊出生率 (各年10月1日現在) (%)

	平成25 (2013)年	平成26 (2014)年	平成27 (2015)年	平成28 (2016)年	平成29 (2017)年
全国	1.43	1.42	1.45	1.44	1.43
三重県	1.49	1.45	1.56	1.51	1.49
名張市	1.56	1.45	1.45	1.43	1.47

②待機児童数の推移

名張市においては、保育施設の定員拡充による保育の受け皿確保が進み、待機児童は減少しています。しかしながら、共働き世帯の増加や女性の社会進出が進んだことなどから、女性の就業率が上がり、保育ニーズが高まっているため平成30(2018)年においても68名の待機児童がいます。

■待機児童数の推移 (各年10月1日現在) (人)

	平成26 (2014)年	平成27 (2015)年	平成28 (2016)年	平成29 (2017)年	平成30 (2018)年
0歳	32	39	48	37	33
1歳	40	40	29	17	27
2歳	16	24	24	18	8
3歳	10	7	7	4	0
4歳以上	2	4	1	2	0
計	100	114	109	78	68

③放課後児童クラブ設置数・利用児童数の推移

保護者の就労等により放課後や夏休み等、昼間、自宅に保護者のいない留守家庭児童のために、放課後児童クラブの整備が進められ、利用児童数が増加しています。子育て世代のライフスタイルの多様化や就労の長時間化などにより子どもの安全な居場所の確保等が求められています。

放課後児童クラブ設置数・利用児童数の推移 *利用児童数:月に8日以上利用した児童数

	平成26 (2014)年	平成27 (2015)年	平成28 (2016)年	平成29 (2017)年	平成30 (2018)年
設置個所数 (箇所)	1 5	1 6	1 7	2 0	2 2
利用児童数 (人)	4 7 0	5 1 1	5 2 4	5 8 8	6 4 0

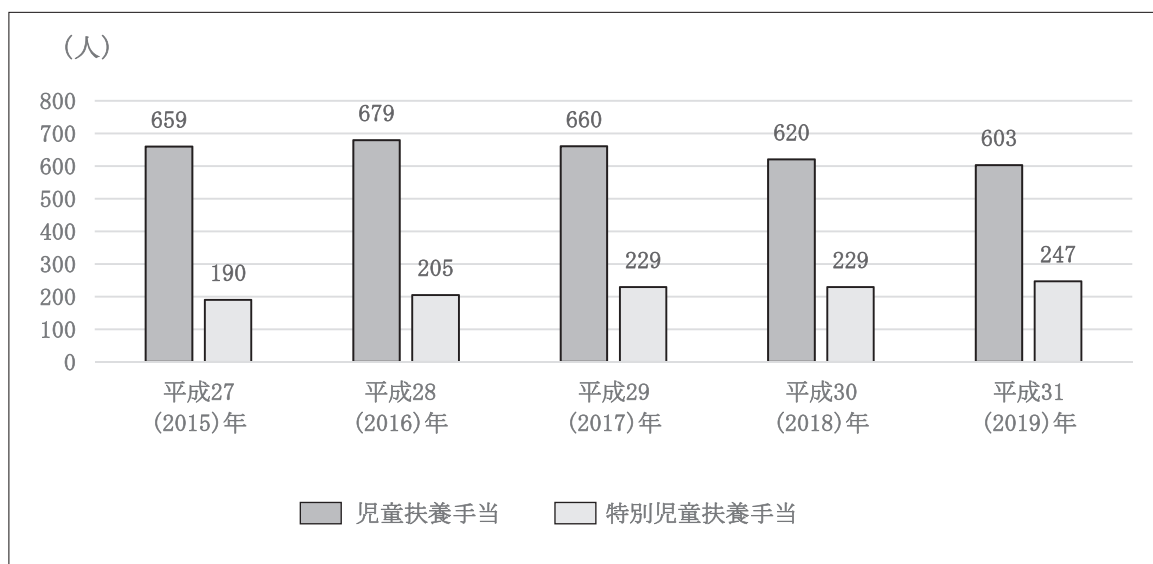
④児童扶養手当受給者数

名張市における児童扶養手当受給状況は、平成27(2015)年から平成31(2019)年までの5年間は、微減傾向にあります。一方、特別児童扶養手当については、増加傾向にあります。少子化の影響と妊娠・出産・育児の切れ目ない相談支援(名張版ネウボラ)の取組により、発達に支援が必要な児童の早期発見につながっている状況がうかがえます。

子育て世代に対する更なる支援の充実のため、子育て支援団体の担い手となるボランティアの養成等に努める必要があります。

児童扶養手当・特別児童扶養手当受給者数 【資料:各年3月31日現在】 (人)

	平成27 (2015)年	平成28 (2016)年	平成29 (2017)年	平成30 (2018)年	平成31 (2019)年
児童扶養手当	6 5 9	6 7 9	6 6 0	6 2 0	6 0 3
特別児童扶養手当	1 9 0	2 0 5	2 2 9	2 2 9	2 4 7



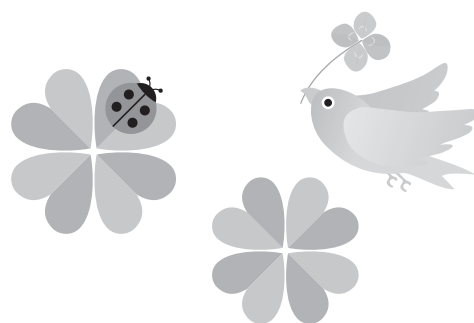
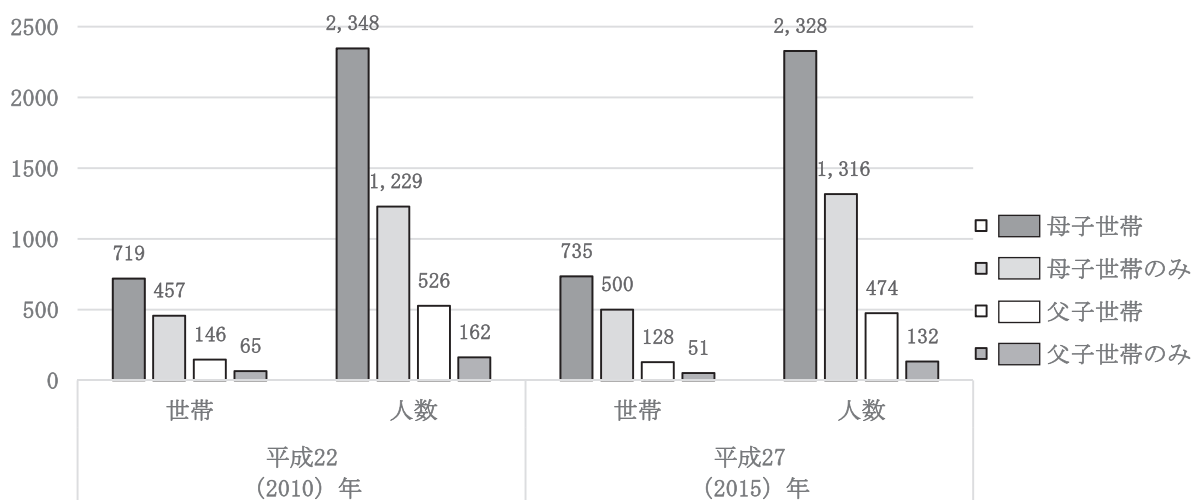
⑤母子・父子世帯状況

名張市における、平成22(2010)年と平成27(2015)年での母子・父子世帯及び人数の対比では、「父子世帯」及び「父子世帯のみ」は減少していますが「母子世帯のみ」は、増加しています。ひとり親家庭が孤立せず支援につながる仕組みを整えつつ、生活、学び、仕事、住まいを支援するとともに、ひとり親家庭を地域全体で応援する仕組みが必要となっています。

■母子・父子世帯及び人数

【資料：国勢調査】

	平成22 (2010)年		平成27 (2015)年		
	世帯	人数	世帯	人数	
母子世帯	719	2,348	735	2,328	他の世帯員がいる世帯を含む
母子世帯のみ	457	1,229	500	1,316	母子世帯のみ
父子世帯	146	526	128	474	他の世帯員がいる世帯を含む
父子世帯のみ	65	162	51	132	父子世帯のみ



(5) 名張市における成年後見制度の利用について

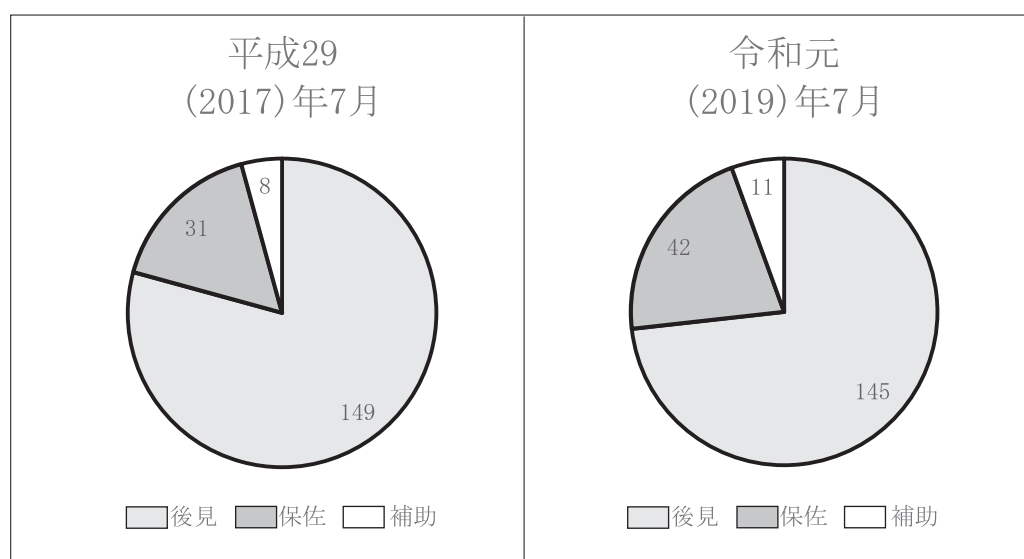
① 成年後見制度類型別利用者数の推移

名張市における成年後見制度の利用者数は増加しており、特に保佐、補助の種類の伸びが顕著となっています。今後は、名張市が取組む地域連携ネットワークにおいて中核機関（伊賀福祉後見サポートセンター）の充実が図られることから地域で支える成年後見制度の受任体制の整備をすすめる必要があります。

■ 名張市における成年後見制度利用者数の推移 【資料：津家庭裁判所本庁】 (人)

類型	後見	保佐	補助	合計
平成 29 (2017) 年 7 月	149	31	8	188
平成 30 (2018) 年 7 月	142	36	8	186
令和元 (2019) 年 7 月	145	42	11	198

■ 名張市における成年後見制度類型別利用者数(対比)



■法人後見を実施している社会福祉協議会における法人後見受任件数（平成28年度）

	後見	保佐	補助	任意後見	合計
受任している社協数	324	191	76	11	340
受任件数合計	2,257	608	127	54	3,046
1社協当たりの件数	6.97	3.18	1.67	4.91	8.96
名張市社協の受任件数	5	2	0	0	7

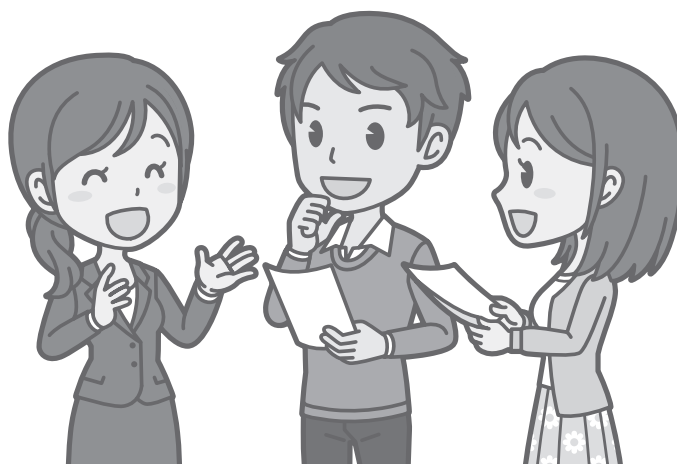
*受任件数が5件以下の社協は54.3%である一方、10件以上は28.9%となっている。

②成年後見制度の存知（障がい分野のみ）

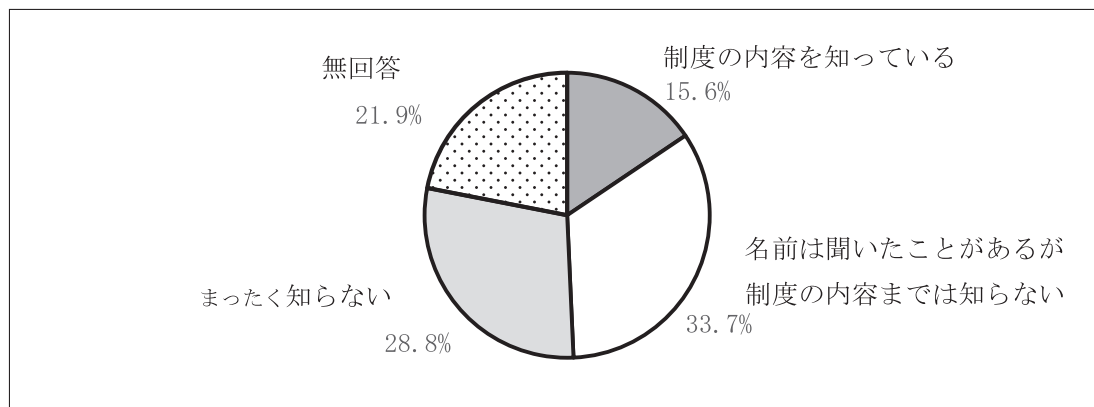
令和元（2019）年7月に実施した「名張市障害者福祉計画策定にかかるアンケート調査（本人調査）」で、成年後見制度の存知について尋ねたところ、「名前は聞いたことがあるが制度の内容までは知らない（わからない）」が33.7%で最も多く、続いて「まったく知らない」が28.8%となっています。成年後見制度について内容まで知らない方が約6割となっています。平成12（2000）年から施行された成年後見制度に対する理解が十分ではない状況にあると考えられます。

■名張市障害者福祉計画策定にかかるアンケート調査 本人調査分（令和元年7月）

	回答数(人)	割合
制度の内容を知っている	66	15.6%
名前は聞いたことがあるが制度の内容までは知らない（わからない）	143	33.7%
まったく知らない	122	28.8%
無回答	93	21.9%
合計	424	100.0%



■成年後見制度について知っているか



(6) 日常生活自立支援事業の利用者数の推移及び利用意向

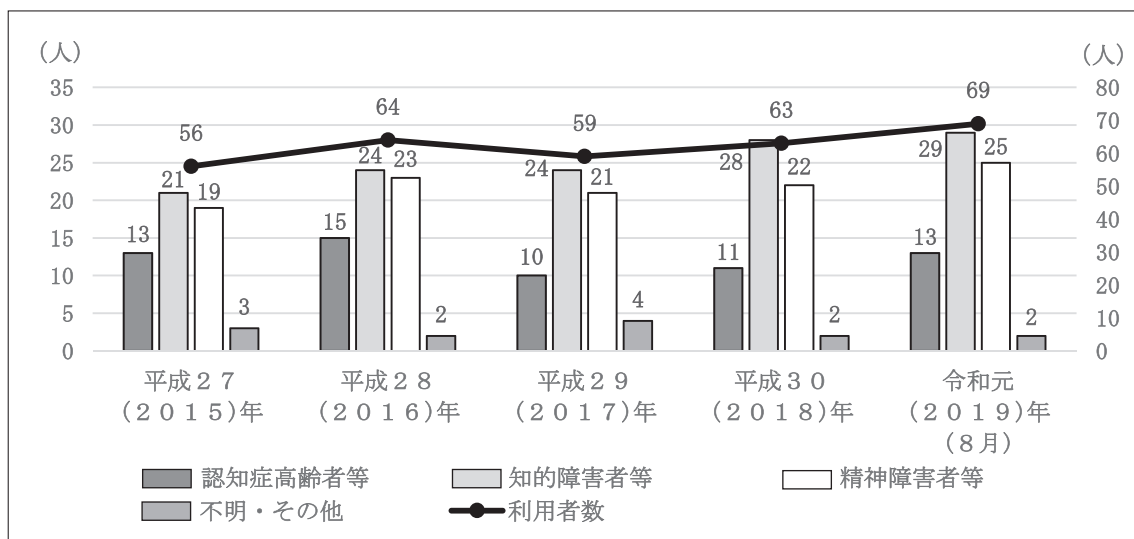
①日常生活自立支援事業の利用者数の推移

本会が実施する日常生活自立支援事業の利用者数は、平成29(2017)年より増加しています。今後も認知症高齢者や障害者手帳取得者の増加が見込まれることから事業実施の体制拡充が求められています。

■日常生活自立支援事業の利用者の推移（各年3月31日現在）

(人)

	平成27 (2015)年	平成28 (2016)年	平成29 (2017)年	平成30 (2018)年	令和元 (2019)年8月
利用者数	56	64	59	63	69
認知症高齢者等	13	15	10	11	13
知的障害者等	21	24	24	28	29
精神障害者等	19	23	21	22	25
不明・その他	3	2	4	2	2

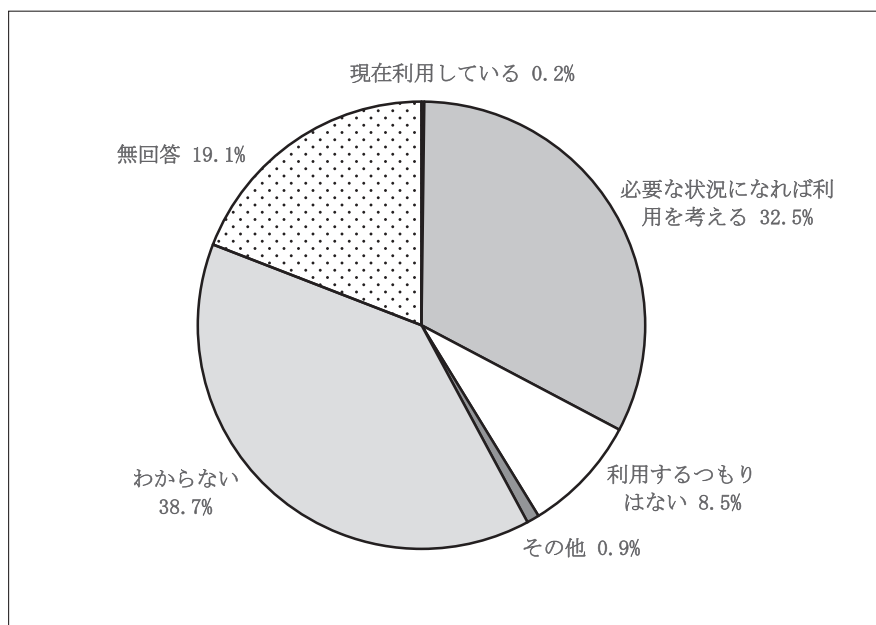


②日常生活自立支援事業の利用意向

令和元(2019)年7月に実施した「名張市障害者福祉計画策定にかかるアンケート調査(本人調査)」で、「あなたは今後日常生活自立支援事業を利用したいと思いますか」との問いに、「わからない」が38.7%と最も高く、次に「必要な状況になれば利用を考える」が32.5%となっています。同居家族の高齢化に伴い利用者数は増加すると考えられ、成年後見制度の利用促進等と一体的に展開し、その支援体制を強化することが求められています。

■日常生活自立支援事業(利用意向割合) (平成28年度～令和元年8月)

	回答数(人)	割合
現在利用している	1	0.2%
必要な状況になれば利用を考える	138	32.5%
利用するつもりはない	36	8.5%
その他	4	0.9%
わからない	164	38.7%
無回答	81	19.1%
合計	424	100.0%



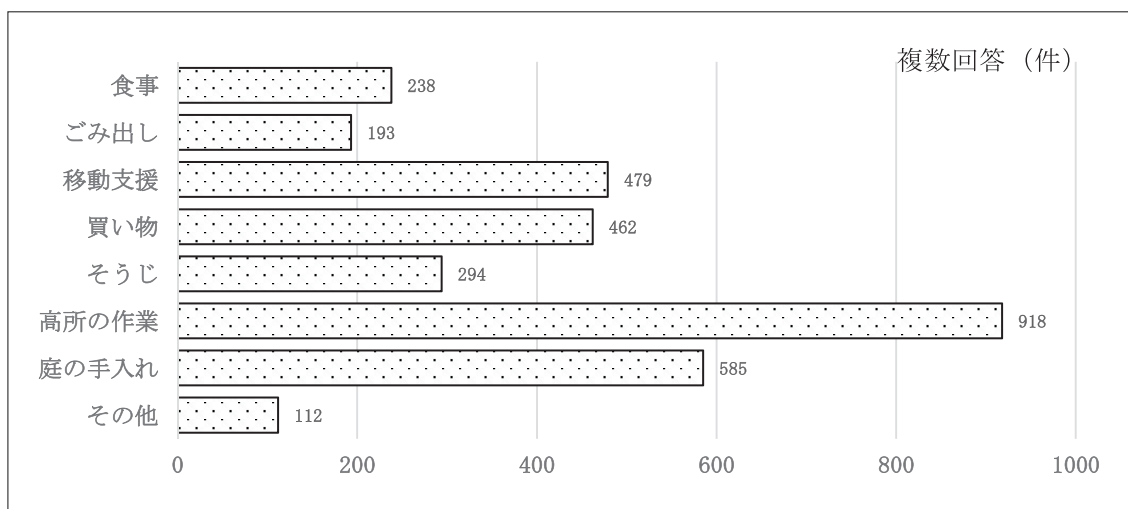
3. 地域の状況

(1) 互助・共助の状況

① 自宅で暮らし続けるために必要な援助

平成30(2018)年に実施した、民生委員・児童委員による、70歳以上の単独世帯、75歳以上のみの世帯等を対象とした高齢者等実態調査で、今の自宅で暮らし続けるために必要な援助を尋ねたところ、「高所の作業」が最も多く、次いで「庭の手入れ」「移動支援」「買い物」「そうじ」「食事」「ごみ出し」の順になっています。

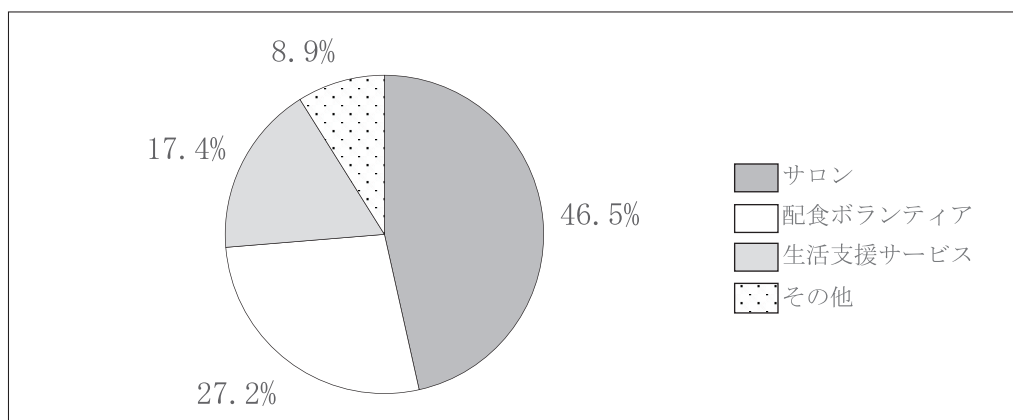
■ 今の自宅で暮らし続けるために必要な援助【名張市高齢者等実態調査】(平成30年)



② 生活支援サービス等の利用状況

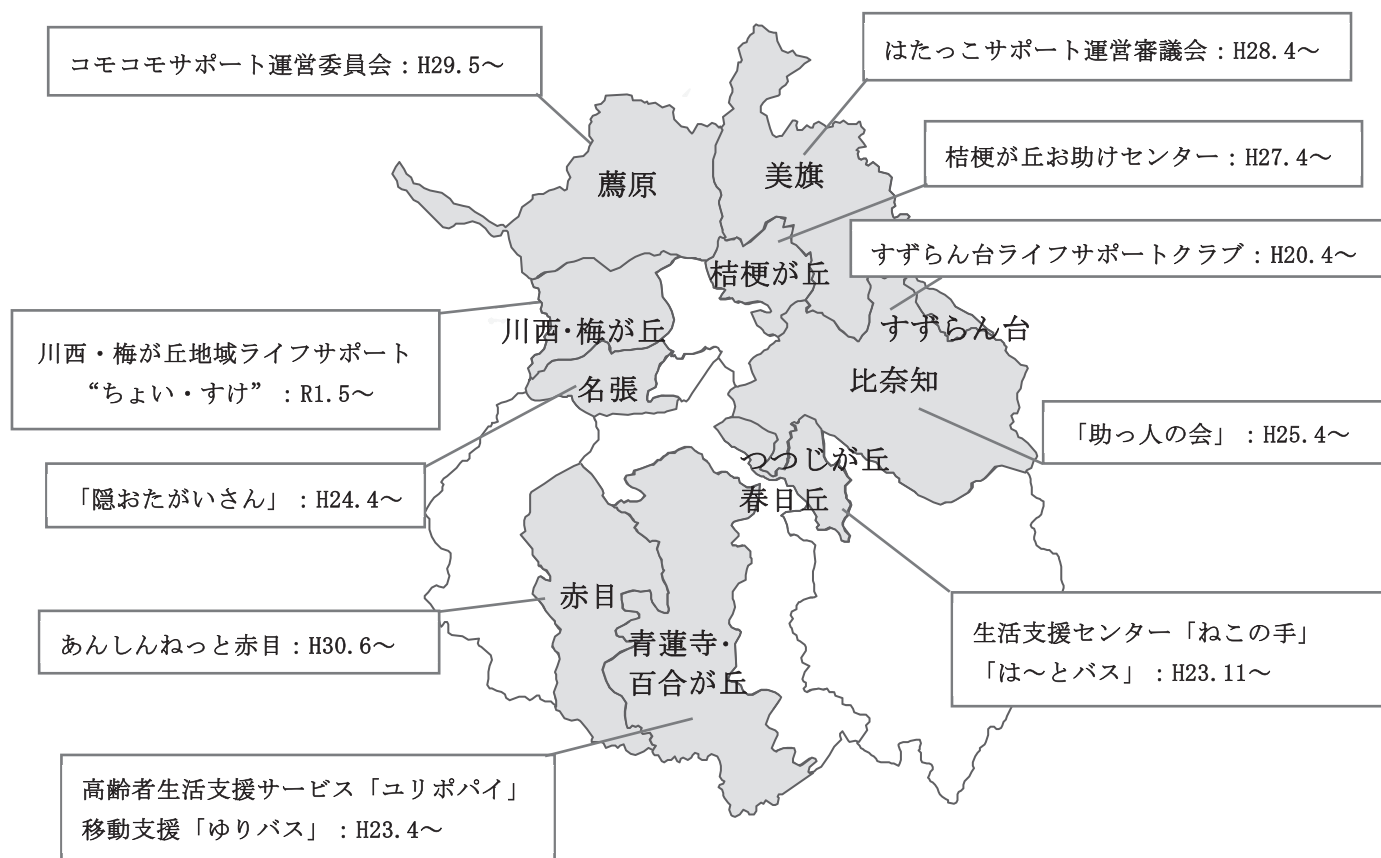
高齢者等実態調査で、身近な地域での生活支援サービス等を「受けている」と答えた人の、利用状況は次のようになっています。

■ 地域におけるサービスの利用内訳【名張市高齢者等実態調査】(平成30年)



(2) 地域ささえあい活動の状況

公的サービスでは対応できないような生活課題について、有償ボランティア組織によるサービス提供を行う地域は、約10年で10地域(うち移動支援は8地域)にまで急速に広がっており、地域共生社会の気運が高まっている状況にあります。



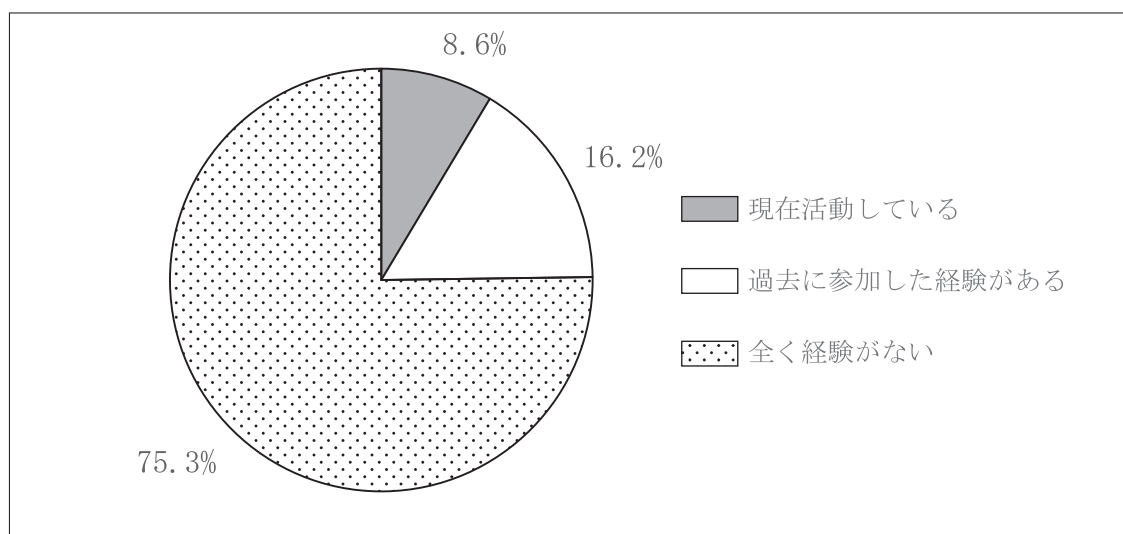
(3) 市民公益活動(NPOやボランティアなど)への参加状況

令和元(2019)年の市民意識調査で、市民公益活動(NPOやボランティアなど)に参加したことがあるかを尋ねたところ、「現在活動している」が8.6%、「過去に参加した経験がある」が16.2%、「全く経験がない」が75.3%となっています。その内訳の16.7%が「全く経験がないが、今後参加していきたい」と回答しています。

■名張市総合計画「新・理想郷プラン」にかかる市民意識調査（令和元年）

	回答数(人)	割合
現在活動している	78	8.6%
過去に参加した経験がある	147	16.2%
全く経験がないが、今後参加していきたい	152	16.7%
全く経験がなく、今後も参加の予定はない	533	58.6%
無回答	(31)	—
合計	910	100.0%

■市民公益活動(NPOやボランティアなど)に参加したことがありますか (地域づくり組織・区・自治会などの地域づくり活動は含まない)

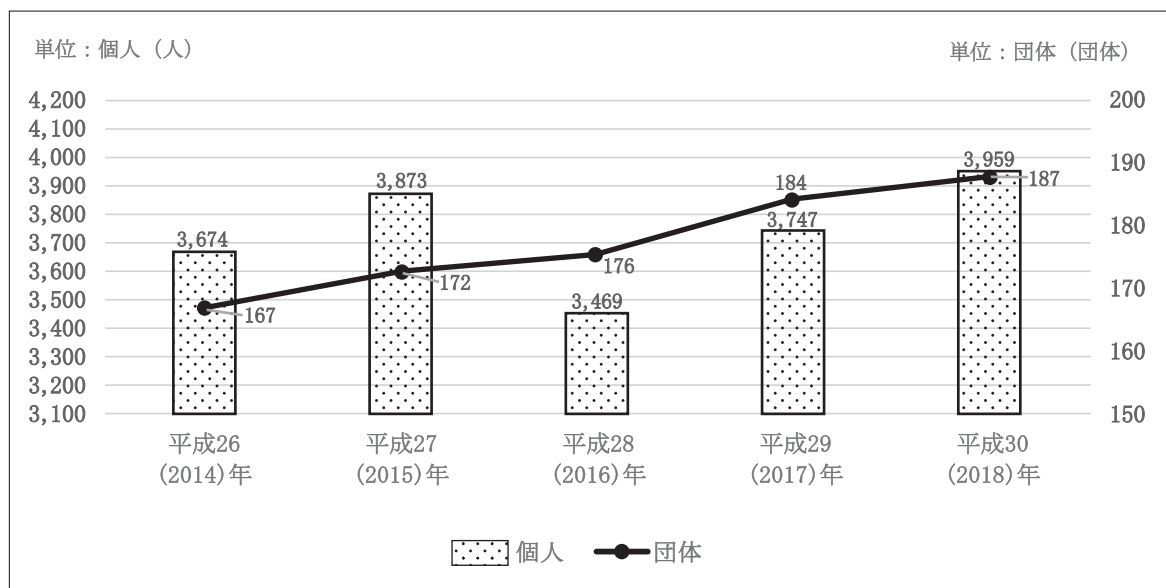


(4) 「ソーシャルキャピタル」の指標としてのボランティア活動者

地域づくりの鍵となるものとして、「ソーシャルキャピタル」の指標がありますが、その概念は、「お互いを信頼し助け合えるような人間関係」を一つの資本として考え、ボランティア活動が盛んな地域は、犯罪が少なく、子どもの数が増加するといった結果が得られており、住民同士のつながりの中で生まれる「ソーシャルキャピタル」は住みよい地域づくりには欠かせないものとなっています。

また、地域共生社会の実現には、ボランティア活動などへの参加を活性化させることが必要不可欠となっており、様々な場面で地域福祉の担い手の確保、育成、支援が必要です。名張市における個人ボランティア、活動団体数は増加傾向にあります。その年齢構成は高齢化しており、新たな世代の参加に向けた取組が必要になっています。

■ ボランティア活動者及び団体数の推移（平成26年～平成30年）



(5) 平成30(2018)年度 地域福祉推進懇談会の報告

第3次名張市地域福祉活動計画見直し計画に基づき、地域福祉活動実践者等の声や施策動向を踏まえながら、地域福祉活動を充実させることを目的に、地域福祉推進懇談会を開催しました。

今後は、地域福祉推進懇談会で見てきた各地域の課題を計画的に解決するために各地域の実態に即した事業を決め、行政や地域づくり組織の福祉部会等と連携を図り推進することが求められています。

平成30年度地域福祉推進懇談会総括表

平成31年3月31日現在

地域づくり組織	日 程	テーマ	参加人数	参加者構成
				ま と め
名張地区まちづくり推進協議会 (名張)	11月14日(水)	地域で支えよう 災害・緊急時要 援護者支援について	8	会長・ふれあい交流部会・区長会・民生児童委員・名張養 護学園
	14:00～			・「防災マップ」取組み再認識 ・自治防災の必要性を共有化
中央ゆめづくり協 議会 (鴻之台・希央台)	12月1日(土)	気軽に憩えたらいいな 地域の楽 しい居場所づくり	33	会長他役員、部会長、区長、民生委員
	15:00～			・「地域で憩える居場所づくり」検討会設立準備
蔵持地区まちづく り委員会 (蔵持)	10月26日(金)	名張市社会福祉協議会の取組に ついて・意見交換	15	会長・理事・区長・民生児童委員・PTA会長・放課 後児童クラブ
	13:30～			・地域課題を再確認する機会となった ・地域福祉に関する意識向上
川西・梅が丘地域 づくり委員会 (梅が丘)	2月10日(日)	名張市社会福祉協議会の取組に ついて・意見交換	17	新旧理事・役員
	10:00～			・地域福祉に関する意識の向上
薦原地域づくり委 員会 (薦原)	2月3日(日)	・「子どもが愛着を持って成長する ために出来ること」 ・「高齢者がいきいき暮らすために 必要なこと」	15	地域役員と地域住民（先着30名：薦原地域住民公 募方式による）
	14:00～			・地域内の各地域、各年齢層との交流により、地域づくりのヒントを得 られた
地縁法人 美旗まちづくり協 議会(美旗)	12月15日(土)	意見交換	16	地域づくり福祉部（部長・民生児童委員・福祉委 員）
	10:00～			・福祉委員による現状課題の共有と地域福祉の意識向上
ひなち地域ゆめ づくり委員会 (比奈知)	1月17日(木)	社協の取組・これからの「福祉部 会」のあり方について	28	協議会役員・福祉部会
	19:00～			・福祉部会が求める意見交換の機会となった
すずらん台町づく り協議会 (すずらん台)	12月2日(日)	きずな、ライフサポートのこれから を考えよう！	32	会長他役員、自治会長、各部会長、民生委員、福 祉青少年部会
	10:00～			・サロンきずな：意見に基づき企画検討 ・ライフサポート：現状の活 動を理解していただいた
地縁法人 錦生自治協議会 (錦生)	11月29日(木)	・名張市社会福祉協議会の取組 について ・高齢を迎えても元気にいきいきと 過ごすための秘訣について	13	会長他役員・民生児童委員・センター長・まち元 リーダー
	19:00～			・地域の繋がりは必要不可欠 今後居場所づくりを進める
赤目まちづくり委 員会 (赤目)	12月1日(土)	・名張市社会福祉協議会の取組 について ・各地区に高齢者向きサロンの設 置と運営	23	会長他役員・区長・民生児童委員・センター長・ 青年会 老人クラブ協議会
	19:00～			・各地区にサロン設置に向け検討
箕曲地域づくり委 員会 (箕曲)	2月17日(日)	未来を担う若者・子ども達につな ぎ元気ある箕曲地域にするために	43	会長他役員、区長、民生教育、スポ推、環境、保 健、防犯、交安、農業、PTA、消防団、老ク、女性
	13:30～16:00			・「私たちがいきいきと暮すにはどのようなことが必要か」を検討推進
一般社団法人 青蓮寺・百合が丘 地域づくり委員会 (百合が丘)	11月11日(日)	あつたらいいな！こんな“まるごと 食堂”	19	会長他役員・ビジョン委員・民生児童委員、まち保・カ フェバルーン・市民センター・福祉健康部会・こもはら福 祉会
	10:00～			・まるごと食堂の必要性の確認 カフェバルーン等での新しい取組み
国津地区地域づく り委員会 (国津)	12月1日(土)	国津地区を元気にしよう	20	会長他役員・区長・民生児童委員・国津園
	10:00～			・国津園が野菜販売に協力 ・国津よいとこ再発見：地域を元気にし ていく
桔梗が丘自治連 合協議会 (桔梗が丘)	12月4日(火)	社協ってなあに？福祉のまちづく りを応援する役割について	8	会長他役員・地域福祉部長・センター長・お助け センター・区長・自治会長・事務局
	13:30～			・地域の課題やニーズを共有 ・社協で活用できる役割を一定理解し た
つつじが丘・春日 丘自治協議会 (つつじが丘)	12月11日(火)	みんなの居場所づくりについて	15	会長・理事・民生児童委員・センター長・福寿会・コア ラ・生活支援つつじ春日丘・花の里・つつじが丘保育園
	9:30～			居場所づくりの必要性について理解できた 実現に向け、進め方、意 見をまとめていく